

## 海外から見た日本文化発信のあり方

2008年3月19日

### 1. 最近の経験

ワシントン ケネディ・センターでのジャパン・フェスティバル(08年2月)  
JAPAN! CULTURE + HYPER CULTURE

伝統的 … 漆, 屏風, 帯止め, 織物, 狂言など舞台芸術, 日本料理。

現代的 … ロボット, アニメ, 写真, デザイン, 建築・美術作品, 演劇。

新国立劇場バレエ団のバレエ公演がトリを飾る。聴衆, 各紙の高い評価。

※日本文化の魅力: 多様性, 洗練性, 新規性, 高度の技術, 伝統・現代の混濁の活力。

### 2. 在外大使館から見た日本文化の発信

トルコでの経験 – 親日国らしい親近感と寛容性

A 土日友好基金文化センター(アンカラ)の設立…文化発信拠点をもつ意義  
各種催し(音楽・舞踊・民俗芸能・生活文化), 日本に関する図書・情報の発信

B 美術展, ファッションショー, オーケストラなど大型の催し(他の都市へも)

C 留学生, 日本語弁論大会と日本への招待, 大学の日本語講座への支援, 講演会

中東地域や他の発展途上国…日本の教育・科学技術・文化への憧憬と期待

先進諸国の場合…大使たちの日本文化発信への強い期待。外交力の主要な柱に。

何年か毎にインパクトのある催し+日常的な文化発信。

### 3. 国際的な文化発信の考え方

- ・重点国, 重点地域での拠点施設の充実と周辺地域への波及
- ・継続的な発信の必要

A TV・国際放送の開始(日本語・日本文化紹介を含む)による世界への発信

B アニメ, 漫画, 映画, DVD など目にみえる手段での発信, インターネット, メディアを通じた発信

C ひと(芸術家, 文化人など)の派遣, 在外日本芸術家の周辺国への派遣。  
もの(文化財, 現代的作品)の移動による展示, など。  
ポップ・カルチャー, ハイ・カルチャーともに。

D 外国人の受け入れの拡大, 外国人が体験するに相応しい国内文化拠点の整備(既存諸施設・観光地の充実, ポップカルチャーの拠点創設など)

### 4. 発信戦略の策定の必要

- 発信内容の充実(発信拠点・面の整備, ソフト面の充実, 人材養成, 受け入れ拡充のための工夫, 学校教育での啓発など)
- 国の予算の充実, 民間の力の活用と支援
- 効果的な発信のための人材の育成
- 対象国・地域の選定(時間的・空間的なバランス)と発信プラン
- 企画・実施の仕組み, 省・庁をこえた協力の必要, 民間との連携を図るためのシステムづくり

以上  
(委員 遠山)